

2021年3月～2021年7月

3月	26日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館となる(4月12日までの予定)。
4月	3日	まん延防止等重点措置が適用され、5月6日まで臨時休館が延長される。4月17日から開催を予定していた写真展「星野道夫 悠久の時を旅する(以下、星野道夫展)」は延期に。
13～14日		星野道夫展の展示作業を行う。
27日		臨時休館が5月11日まで延長される。
5月	12日	前日11日で臨時休館期間が終了し、約1か月遅れて星野道夫展がオープン。〈写真①〉
15日		星野道夫展の関連イベントとして「森林インストラクターと北根の森を旅しよう!」を開催(本紙7ページ参照)。
16日		臨時休館のため延期となっていた今年度の「仙台文学館ゼミナール」が開講。最初の講座は「朗読ワークショップ」。
18日		仙台市公式動画チャンネル「せんだいTube」に「仙台文学館・ことばの杜をあるこう」がアップされる。「伊達武将隊」の伊達政宗公が案内役となり、当館と仙台ゆかりの文学作品を映像でPR。
6月	11・16日	旭丘小学校2年生が校外学習で星野道夫展を見学。
15日		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前応募方式とした「第24回ことばの祭典」の入賞作品パネル展が始まる(会場は1階エントランスロビー)。〈写真②〉
22日		聖ドミニコ学院中学校の全校生徒が校外学習で星野道夫展を見学。
27日		星野道夫展終了。

仙台文学館 公式ツイッターの写真から



①星野道夫展にあわせ、館内のカフェ「ひざしの杜」では“蒸しパンとブルーベリーの甘酸っぱいデザート”を提供。星野さんが愛したアラスカの大地上に実るブルーベリーをイメージした特別メニューでした♪



②「ことばの祭典」は、全国でもあまり例のない短歌・俳句・川柳の合同吟行会。事前応募方式とした今回、41都道府県の約500名の方から作品が寄せられました。



③イラストレーター・東京モノノケさんが描く妖怪たちに、道行く人も思わず立ち止まってしまう外看板。涼を求めるにはもってこい!?



④本編のどのあたりに当館が登場するのでしょうか? ぜひ映画館に足を運んで確かめてみてください!

6月	29日	星野道夫展の撤収作業を行う。外看板や館内のバナーを、こども文学館えほんのひろば「みちのく妖怪ツアー展」に掛け替え。〈写真③〉
7月	4日	中山七里さんの小説が原作の映画「護られなかった者たちへ」(主演:佐藤健、阿部寛)のポスターをエントランスに掲示。同作には当館もロケ地のひとつとして登場する。10月1日公開予定。〈写真④〉
15日		石沢麻依さん(仙台市出身)の小説「貝に続く場所にて」が第165回芥川賞に決定したことを受け、受賞作を紹介するコーナーを設置。エントランスに七夕飾りを設置。
17日		こども文学館えほんのひろば「みちのく妖怪ツアー展」がオープン(8月22日まで)。



交通のごあんない

■バス利用の場合

〈宮城交通バス〉
○仙台北・泉地区方面行
(急行・北山トンネル経由を除く)

〈市営バス〉
○仙台北・泉地区方面行
八乙女駅行
※いずれも「北根二丁目・文学館前」下車

■地下鉄利用の場合

地下鉄南北線「台原駅」下車、
南1番出口より徒歩約25分
(台原森林公園内あかまつの道経由)
※山道です。雨天時は道が滑りやすくなりますので、ご注意ください。

■駐車場40台(無料)

台数に限りがございます。なるべく公共交通機関をご利用ください。



カフェ ひざしの杜

お食事、デザート、各種飲み物などを
ご用意しています。
お得なランチメニューもあります♪

〔営業時間〕
10:00～16:00(ラストオーダー15:50)
※ランチは10:00～14:00
TEL 022-219-1341

〒981-0902 仙台市青葉区北根 2-7-1
TEL 022-271-3020 FAX 022-271-3044

https://www.sendai-lit.jp/

「仙台文学館ニュース」の
バックナンバーを
掲載しています。



仙台文学館 ニュース

Sendai
Literature
Museum
News

第四十一号

エッセイ

あかまつの道を抜けて

第3回 「杜鵑」

佐伯一麦

仙台市の市鳥は郭公で、子供の頃はよく啼き声を聞いたものだが、托卵する相手のオオヨシキリが生息する環境が失われてしまったせいか、近頃ではその声を聞くことがめっきり少なくなった。だから今では代わりに、同じ郭公の仲間である夏鳥として渡ってくる杜鵑の初音に耳を澄ませるようになった。

私が住む大年寺山は、麓の地が藩政時代の頃は気候が温暖なところから百代の里と呼ばれ、鶯の初啼きが最も早く聴かれたという名残りが、いまでも鶯がよく囀り、その巢に托卵する習性のある杜鵑の啼き音もしよちゅう聞かれる。

伊達政宗も、「てっぺんかけたか、てっぺんかけたか」と啼き募る杜鵑の声には思いがあったようで、最後となった参勤交代の旅につく前には、何としても杜鵑の初音を聞こうと、病身の老軀を押し、城下をめぐる山々を歴訪した。そのときに、北山、茂ヶ崎山(現在の大年寺山)、経ヶ峯を巡歴したが、杜鵑の初音を聞くことは叶わず、経ヶ峯ではしばらく佇み、傍らに控えていた家臣の奥山常良に、死後はこの辺りに墓所を定めるように、と

杖を立てて指示したという。そして、思いを残しつつの江戸への旅立ちとなり、行列が増田を少し過ぎたところで、一羽の杜鵑が街道の柳に飛び降り、姿を見せて啼いたと伝えられている。

そんな故事を浮かべつつ、いまにも雨が落ちてきそうな梅雨空の下を、台原森林公園内の「あかまつの道」を歩いた。杜鵑の啼き音に耳を澄ませつつ。鶯と、その声を真似る画眉鳥がけたたましく啼き、虫の鳴き声のような数雨の声も聞かれたが、残念ながら杜鵑の声を聴くことは叶わなかった。それでも、聞こえないからこそ、思いが募ることもある、と納得させられた。

仙台文学館まで辿り着くと、好みの野草である蜜袋に迎えられた。和名は、子どもが袋のような花に蜜を入れて遊んだことに由来するという。隣り合わせに赤紫と白の両方の花があり、釣鐘状の花はいつ見ても嬉しい趣がある、と見入った。

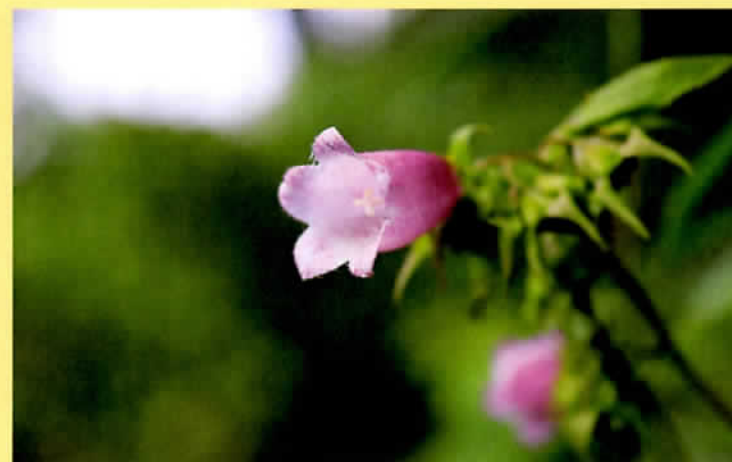


写真:佐々木隆二

CONTENTS

エッセイ	「あかまつの道を抜けて」佐伯一麦 ……1
シリーズ	「私の一冊」梶原さい子 ……2
予告	特別展『ぼのぼの』連載35周年記念 『ぼのぼのたちの杜』 ……4
レポート	「森林インストラクターと北根の森を旅しよう!」 ……7
文学館日誌	……8



版画：明才



梶原 さい子
かじわら さいこ

歌人。1971年、宮城県気仙沼市唐桑町生まれ。河野裕子に会い、短歌を詠みはじめる。1998年、塔短歌会入会。現在、同会選者。歌集に『ざらめ』、『あふむけ』、『リアス／椿』（第11回葛原妙子賞）、『ナラティブ』（2021年度日本歌人クラブ東北ブロック優良歌集賞）、『現代短歌文庫 梶原さい子歌集』。共著として『3653日目＜塔短歌会・東北＞震災詠の記録』がある。第29回現代短歌評論賞、第1回塔短歌会賞、2014年度宮城県芸術選奨等を受賞。朝日新聞みちのく歌壇選者。仙台文学館が主催する「ことばの祭典」、『晩翠わかば賞・晩翠あおば賞』の選考委員も務める。高校教員。宮城県大崎市在住。

に行った。帰り道は一ノ関まで新幹線に乗った。それまで新幹線にはほとんど乗ったことがなかったので緊張したが、自由席は混んでいて、私たちは離れて座るしかなかった。そのとき、私は唐突に、この「ひかりの素足」を思い出し、自分達に重ね合わせた。家族だとしても別々の席に座らねばならないこと、どんなに心細くても一緒にはいられないこと。私より心細いだろう弟のそばにいてあげられないこと。弟の心細さは弟のもので、私にはどうしようもできないこと。三列前に座っている父と私は、別個の存在であること。いつか私たちは、離れてしまうこと。死んでしまうこと。一人に一つの

席は、他の人のものではないこと。一郎はみんなと一しよに追われてあるきながらなんべんも橋夫の名を低く呼びました。けれども橋夫はもう一郎のことなどは忘れたようでした。その人は一郎にいました。「おまえは一度あのもとの世界に帰るのだ……」

「ひかりの素足」は、「死」と、一人ずつでしかいられない私たちの存在というものを、子どもの私に理解させた。仙台から一ノ関まで三十分余り。私は密かに涙を流し続けた。

シリーズ「私の一冊」第35回
梶原さい子

新版宮沢賢治童話全集8
『セロひきのゴーシュ』

言葉を話し始めるのが遅い子どもだった。しかし、話し始めたらべらべらとしやべり、通信簿に落ち着きがないと書かれたほどだった。一方で、本が好きで、あれ、いない、どこに行つた、と探すと、座敷の片隅で気配を消して、本を読んでいたという。いや、字が書いてあるものなら何でもよく、町の広報誌や、スナック菓子原材料の記載など、手当たり次第に読んだ。手伝いをしろと言われても、夕飯できたよと言われても生返事。これは今でもすまないと思っている。寝ころんでおやつを食べながら本を読むのが至福だった。

小学校高学年の頃、宮沢賢治と出会った。岩崎書店の新版宮沢賢治童話全集8、『セロひきのゴーシュ』である。「ゴーシュ」の他には、「度十公かりの素足」という作品があった。一郎と橋夫の兄弟が、父のいる炭焼小屋から家に戻る途中、吹雪に襲われる話だが、あまりに怖くて衝撃を受けた。結果的に弟の橋夫は死んでしまう、そして、一郎は助かる。「死」を扱った作品をそれまでも読んでいたし、たとえば、曾祖母の死去なども経験していた。が、ぴんと来ていなかった。どこが怖かったのか。まず、橋夫は自分の死を予感している。その中に、「ひかりの素足」

……深く雪の中に手を入れてしまつて急に起きあがりもできず、おじぎのときのように頭をさげてそのまま泣いていたのです。

「わがない。わがない。（だめだ、だめだ）」

橋夫が泣いていました。その声もまるでちぎるように風が持つて行つてしまいました。

この絶望感。雪の山を歩く大変さは少しは体験していたので、それと重ね合わせ、橋夫の気持ちがあまりにもリアルに感じられた。自分が歩くしかなく、誰も代わってはいくれない。だが、自然の中では、自分の貧弱な体力など何ほどにもならない。そう分かったが

ら進まなければならぬ時の気持ちが。その後、物語は不思議な空間へと場面を変える。二人はそこで他の子ども達と一緒に、鬼に責められる。と、光る素足を持った聖なる人が現れ、助けしてくれる。

これが一番、怖かった。鬼よりも、この聖なる人が。その人の前では、鬼たちもすなおに首を垂れる。みんなは幸せな気持ちになる。なのにとっても怖かった。こういう存在があるということ。この人は優しいけれど、確実に、みんなをどこかへ連れて行く人だ。橋夫は行き、一郎は元の世界に戻る。一緒には行けない。そこには厳然と横たわる境目がある。

ちょうどこの本を読んだ頃、私は父と弟と一緒に仙台の叔母のところ

園林」「フランドン農学校のふた」「毒もみのすきな署長さん」「化物丁場」などが収められていて、子ども心におかしなチョイスだと思つた。

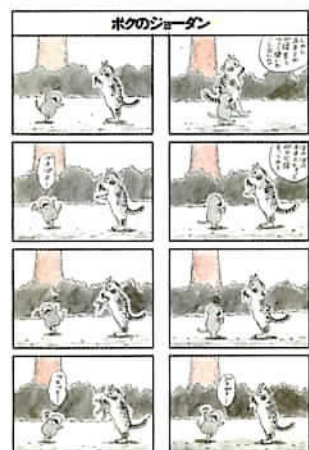
みんながいても昼間でも橋夫は怖いと言う。それなのに、予感があったのに、二人は出発してしまう。なぜ。それは運命だから。その逃れられなさが、まず、とても怖かった。そして、雪に襲われたときの橋夫の描写、



新版宮沢賢治
童話全集8
『セロひきの
ゴーシュ』
(1978年 岩崎書店)

展示構成・見どころ

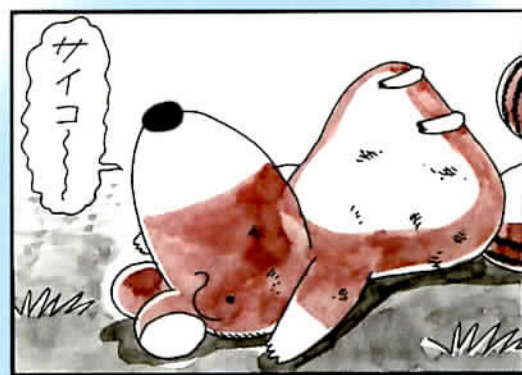
1 いりぐち
ぼのぼののいるところ



『ぼのぼの』単行本第1巻31ページ原稿

「ぼのぼの」といがらし先生のこれまでを振り返ります。連載初期の原稿や、これまでに出版書籍の数々、カラーイラストに使う画材などをご覧ください。

4 海のうえ
ぼのぼのたちのかつやく



『ぼのぼの』単行本第5巻96ページ原稿より

いがらしみきおが選ぶ「ぼのぼの」名場面集。実際の漫画原稿と、いがらし先生の思いの丈が詰まったコメントを展示します。作者本人が「最高傑作」とするシーンもご覧ください。



2 森のなか
ぼのぼのとなかまたち



『ぼのぼの』単行本第2巻98ページ原稿より

「ぼのぼの」に登場する森のなかまたちを、印象的なシーンの原稿とともに紹介。いがらし先生からぼのぼの、シマリスくん、アライグマくんなどキャラクターたちへ寄せたコメントは、ファン必見の濃い内容になっています。

3 川のほとり
ぼのぼのたちのことば



『ぼのぼの』単行本第2巻81ページ原稿より

「ぼのぼの」の魅力のひとつは、どこか哲学的で、やさしく深みのあることばたち。漫画の中に出てきた数々の名セリフの一部を、その場面の原稿とともに紹介します。

その他、雑誌の表紙などに使われたカラーイラストや、「ぼのぼの」のイラストができるまでを追ったメイキング、いがらし先生の出身地・加美町中新田のおすすめスポットをまとめた「加美ぼのぼの&いがらしみきおマップ」などを展示します。



©いがらしみきお／竹書房

いがらしみきお

1955年生まれ。宮城県加美郡中新田町（現・加美町中新田）出身。1979年に24歳で漫画家デビュー。最大で月に20本以上の連載を抱える人気漫画家となる。1984年に一時休筆宣言。1986年に雑誌『まんがライフ』（竹書房）にて「ぼのぼの」の連載を開始し、現在も連載中。2021年3月に単行本最新第46巻が発売されている。



いがらしみきお自画像

ギャグコメディからホラー・サスペンスまで幅広いジャンルの作品を手がけ、宮城県芸術選奨（メディア芸術部門）、文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞、日本漫画家協会賞優秀賞などを受賞。仙台市在住。

地元仙台で「ぼのぼの」35周年記念の展示会を開催していただけるとは、こんなに幸せなことはありません。見る、聞く、触る、撮る、食べる、みなさんの五感でぜひ「ぼのぼの」の世界を楽しんでいただければと思います。



青いラッコの男の子・ぼのぼのを主人公に、森のなかまたちのゆるい暮らしを描く大人気漫画『ぼのぼの』。1986年に連載を開始し、今年で35周年を迎えました。作者・いがらしみきお（仙台市在住）とぼのぼのたちの35年の歩みを、貴重な原稿資料等とともに紹介します。

会期 2021年9月18日（土）～11月28日（日）

ぼのぼのたちの杜

『ぼのぼの』連載35周年記念

予告 特別展



この日はみごとに五月晴れ。感染予防のため、参加者はマスクを着用して散策しました。木村さんの説明に熱心に耳を傾け、こまかくメモを取る方も。



咲き始めのヤマボウシ



タラノギ



この日の講師は、「特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会」企画部長の木村健太郎さん。ふだんは利府町の「県民の森」で活動しています。手に持っている黄色い花はブタナ。

木村さんが持っているのはゼンマイの枝。これをちょこちょこっと加工すると、ヤジロベエのできあがり！こんなふうには、植物は観賞するだけではなく、遊ぶこともできます。



散策中に野鳥の鳴き声が聞こえてきました。「あれはガビチョウですね」と木村さん。ほかにもコゲラ、シジュウカラ、コジュケイなど、文学館の庭には多くの野鳥が棲んでいます。



サンショウ



エゴノキ



庭の奥にあるツツジの帯。花がちょうど見頃を迎えていました。いっぽう、敷地内には残念ながら寿命を迎えた木々も見られました。

当館では5月12日（水）から6月27日（日）まで、雄大な風景や動物たちを数多く撮影した写真家・星野道夫さんの写真展を開催しました。会期中の5月15日（土）には、関連イベントとして「森林インストラクターと北根の森を旅しよう！」を実施。専門家のガイドのもと当館の庭を散策し、豊かな自然に親しみました。その様子をお伝えします。

レポート

写真展「星野道夫 悠久の時を旅する」関連イベント 「森林インストラクターと北根の森を旅しよう！」

Sendai
Literature
Museum
News

ぼのぼのかくれんぼ

自然あふれる仙台文学館の敷地内で、ぼのぼのたちがかくれんぼをします。ぼのぼのたちを探してみましょ。



フォトスポット

展示室内で、ぼのぼのたちといっしょに写真を撮ろう！フォトスポットのイラストは本展描きおろし！



その他、館内カフェ「ひざしの杜」にて特別メニューを提供予定！

ほかにもお楽しみがたくさん！



展示観覧記念プレゼント

展示で観覧の方に、本展限定『ぼのぼの』記念品をプレゼント！（数には限りがあります。無くなり次第終了となりますので、ご了承ください。）

お手持ちのマスコットや小さいぬいぐるみなどを撮るための「ミニミニフォトスポット」もあります。写真を撮ったらぜひ「#ぼのぼのたちの杜」で共有してみてください。



ミニミニフォトスポット イメージ図

特別展『ぼのぼの』連載35周年記念 ぼのぼのたちの杜

会 期＝2021年9月18日（土）～11月28日（日）

※休館日：日曜日（9月20日、10月11日は開館）、祝休日の翌日、第4木曜日（9月23日は開館）

開館時間＝9：00～17：00（展示室への入場は16：30まで）

会 場＝仙台文学館 企画展示室

観 覧 料＝一般810円、高校生460円、小・中学生230円（各種割引あり）

※「どこでもバスポート」をお持ちいただくと、小・中学生は無料になります。

主催：仙台文学館

特別協力：いがらしみきお

協力：株式会社竹書房 株式会社フジテレビジョン 株式会社エイケン 有限会社オフィスコウキ 有限会社アイ・エム・オー

【おことわり】

新型コロナウイルス感染症の状況により、展示の予定・内容が変更になる場合があります。変更が生じた場合は、当館ホームページ、SNS等でお知らせする予定です。

【ご来館のみなさまへのお願い】

○体調がすぐれない場合はご来館をお控えください。
○館内ではマスクの着用をお願いします。
○ご入館の際、サーマルカメラでの検温、手洗い、手指の消毒にご協力ください。
○会場の3密（密閉・密集・密接）を避けるため、入場制限をさせていただく場合があります。